無痛分娩ガイド

赤枝医院
AKAEDA CLINIC

はじめに

日本では昔から、お産の痛みを我慢することが、女性のつつしみであり美徳であるという考えが根強く残っています。　お産の痛みが子どもへの愛情の証であるかのように言われる方もいらっしゃいます。
とんでもありません。子どもへの愛情は、痛みの有無にかかわらず母子の間で醸し出されるものなのです。子どもを直接産んでいない父親が我が子を溺愛するように・・・
当院では、“痛みに耐えて産むか、痛みをできるだけ取り除いて母となる喜びを感じながら産むかはすべて出産する女性自身の判断によるべきである”という考えに基づき、　女性の希望に応じて、いつでも自然分娩・無痛分娩が選べるように配慮しています。（陣痛が始まってから、あまりの痛さに自然分娩から無痛分娩に切り替えても結構です）

無痛分娩の実際

当院では硬膜外麻酔を用いて無痛分娩を行っています。
麻酔を開始するタイミングは妊婦さまの希望を尊重します。
硬膜外腔という部位に細くて柔らかいプラスチック製のカテーテルを入れ、そこから麻酔薬を少しずつ注入し、子宮や産道に通じる神経をブロックして痛みを和らげる方法です。　麻酔中の急変時にすぐお薬を使えるように点滴を確保します。
１）ベッドで横向きに寝た姿勢で背中を丸めていただきます。皮膚に局所麻酔をし、直径1mmの細いカテーテルを硬膜外腔に挿入します。カテーテルはそのまま皮膚にテープで固定します。処置は５分程度で終了します。
２）痛みを感じるようになってきたら麻酔薬をカテーテルから注入します。約１０分ほどで痛みが軽くなり、陣痛を感じても痛いとは思わない程度になります。麻酔の効果が弱い場合や片方だけ効いている場合は遠慮なくお申し出ください。麻酔の効果がないと判断した場合はカテーテルを再挿入させていただきます。
３）子宮口が全開するまでゆったりした気持ちで過ごしていただけます。分娩監視装置を装着し赤ちゃんが元気かどうかをモニタリングします。痛みの程度に合わせて麻酔薬を追加します。
４）赤ちゃんが産まれるときには、ご自身でいきんでいただきます。
（ただし陣痛が弱く分娩の進みが悪い時にはお手伝いをさせていただくこともございます）

５）会陰切開の縫合時にも痛みを感じません。すべての処置が終わりましたらお部屋に戻る前に背中のカテーテルを抜去します。

無痛分娩中の過ごし方

１）飲食は自由ですが出産前、嘔気、嘔吐が起こることもありますので食べ過ぎにはご注意ください。帝王切開の可能性が高い場合は絶飲食となります。
２）原則、無痛分娩中のトイレ歩行は禁止とし、定期的に導尿させていただきます。
３）胎児心拍モニターを分娩終了まで装着していただきます。
４）血圧測定を麻酔開始直後は頻回に、その後も定期的に行います。
５）麻酔中ずっと同じ姿勢にならないようにスタッフが定期的に体の向きを変えるお手伝いをします。麻酔中は下半身の感覚がにぶくなっているため、長時間同じ姿勢でいることによる神経障害や皮膚トラブルを予防するためです。

無痛分娩の良いところ

１）痛みの神経は麻痺しますが運動神経は比較的保たれますので、いきむことができ、お産をしているという実感があります。
２）血圧が高めの方や産道が硬く伸びが悪いなど難産因子が多い方、羊水が少ない方など赤ちゃんや母体に負担をかけられないケースではまさに最善の分娩方法です。
３）痛みが少ないため、体力も温存でき、産後の疲労感が少なくてすみます。そのため産後の回復が早く、比較的スムースに育児をおこなえます。
４）お産の経過中に帝王切開が必要になった際には、麻酔薬を変更するだけで迅速に帝王切開へ移行できます。

起こりうる問題点

医療行為には不可避な副作用や合併症が起こりえます。当院ではスタッフ一同日々慎重に診療を行い、このようなことが起きた場合も適切に迅速に対応できるように準備しております。
１）麻酔領域の血管の拡張と筋弛緩作用のためお母さんの血圧が低下することがあります。点滴や薬を適切に使い対応することで妊婦さまや赤ちゃんに問題がないようにしていきます。
２）麻酔の影響により陣痛が弱くなり、子宮収縮薬による補助が必要になることがあります。

また出産時に吸引分娩が必要となる頻度が高くなります。（当院では鉗子分娩は行いません）
３）カテーテルの入っていた部位の痛みを感じることがあります。一時的なものが多いですが、長く続く場合はお知らせください。
４）発熱（38℃以上）する場合があります。発熱は分娩後自然に解熱
することがほとんどですが、発熱の原因を調べる為に採血などの検査が必要となる場合があります。
５）まれに頭痛が起きることがあります。1 週間程で落ち着いてきますが、症状が辛い場合などは積極的に治療する方法もあります。
６）カテーテルを挿入した神経の近くに血の固まり（血腫）を作ることがあります。また、硬膜外麻酔カテーテルから細菌が入り感染をおこすことがあります。これらは極めて稀に起こる有害事象です。
血が固まりにくい方、血を固まりにくくする薬やサプリメントを服用中の方は事前にお知らせください。
７）稀に無痛分娩のあと足にしびれや感覚異常が起きることがあります。硬膜外麻酔だけでなく、分娩中の体位や分娩そのものも神経障害の原因となるため、注意深く診察させていただきます。たいていは数日で消失しますが、まれに数ヶ月から数年単位で持続することがあります。
８）極めてまれに麻酔が広がりすぎることがあります。無痛分娩中に息苦しくなったり、腕までしびれる場合はすぐにスタッフにお知らせください。
９）極めてまれに局所麻酔薬の濃度が上がりすぎることにより、舌や唇がしびれたり、ひきつけ（けいれん）を起こすことがあります。このような場合には、迅速に適切な治療法で対応します。

無痛分娩を申し込まれる方へ

無痛分娩の長所と短所をよくご理解の上、同意書にサインをし、お申し込み下さい。

無痛分娩同意書

上記内容に関し納得しました。
私は無痛分娩の長所、短所を良く理解したうえで無痛分娩を申し込みます。

年　　月　　日　　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

保証人　　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印